

『ぼうえんのぼうは防ぐという字、えんは火という字をふたつ重ねたほのおという字です。』さすがに今は少なくなったが、4、5年前の事務所の電話風景である。ひどい時には、ふたつの電話口で同じことをがなっていたりする。無理もない、防災ということばはこしらえたことばである。字引にもない。〔防災に相当する英語はFIRE（或はFLAME）RETARDANTである。〕20年は経つが、ことばが定着するためには、やはり永い年月が必要なのであろう。“防災”は漢語風の読みであるが、漢字の訓読みというのがある。これが面白い。

中学校の国語の問題、次の英字にふりがな（読みがな）を付けなさい。『yesterdayはcoldだったが、todayはwarmかい。』正解は、きのう（昨日）はさむ（寒）だったが、きょう（今日）はあたた（暖）かい。である。別におかしくはない。英字の訓読みであり、漢字の訓読みと同等である。

漢字かな混り文の訓読みは、すっかりなれてしまったが、よく考えてみると実に不思議なものである。英字かな混り文も増えてきたが、やはり英語読みをしてカナにして混ぜてしまうものが多い。すでに定着しつつある。英

字の訓読みは皆無である。けだし、漢字とかなは親子の関係だが、英字とかなは赤の他人であるという事か。

何年か前に、日本語の乱れ、が話題になったことがある。

日本語関係の本を数冊買い込んで読んでみた。しかし期待はずれであった。国語関係の先生方の書かれたものはきわめて真面目であり、かつ学問的？で、上のような、思考実験めいた事などは、もともと縁がなかったのである。

日本語が将来どう変わるかは興味ある問題である。防災方面でよくやる被害予測なみに、たとえ当らなくても、色々な将来予測があってもよいと思う。ことばは理屈ではないから、これは誰でも参加出来る。

茶飲み話になってしまったが、最後に、とっておきの話をひとつ。『消防の役に立つ研究をやれよ。』研究所に居たとき、上役によくこう言われた。一瞬、返答に困ったものである。役に立つ研究をしていると思ったからである。しかし、このなぞはすぐ解けた。こういう意味なのである。『消防に

だけ役に立つ…』ということなのである。このだけが大事である。これは応用がきく本当に役に立つ話である。

随 想

ことばのことなど

橘 房 夫

地域防災デ-ータ総覧委員会委員長
財団法人日本防災協会常務理事